

救え！！赤城姫！！



宮東航
植村広樹
増川凱人¹

新聞記事

□ ヒメギフチョウ守れ 看板設置・パトロール強化 渋川市教委、赤城山で対策／群馬県

渋川市教育委員会は、市内の赤城山に生息し、県の天然記念物に指定されているヒメギフチョウの違法採取を防ぐため、看板の設置やパトロール強化に乗り出す。

赤城山のヒメギフチョウは1940年に発見された。関東地方では唯一の生息地とされる。羽を広げると5センチほどの大きさで、ウスバサイシンという葉の裏に産卵する。舞う姿から、地元では「赤城姫」とも呼ばれている。

山の開発などで生息域が狭まり、今では成虫は100匹ほどとみられている。この地域での生息が絶えかねない危機の状態だ。

市教委文化財保護課によると、最近は卵や幼虫がついたままウスバサイシンを掘って持ち去るといった被害が増えている。今年は100個ほどの卵の被害が確認されたという。

市教委は「こうした行為が個体数維持に影響を与える」と危惧。保護活動に取り組む「ヒメギフチョウ保護連絡協議会」（角田尚士会長）とも協議し、生息地に近い登山口付近4カ所に看板を設けることにした。

卵などの採取が県文化財保護条例などに違反する犯罪であることを訴え、違反者を見つけた場合は警察署に連絡するよう呼びかけている。

保護活動では、協議会の会員でもある「赤城姫を愛する集まり」のメンバーらが20年以上、成虫の発生数や産卵数の調査を続けている。地元の南雲小の子どもたちも下草刈りなどの活動に参加し、ヒメギフチョウを守る地道な活動が続いている。

（泉野尚彦）



朝日新聞 2012年06月28日 朝刊 群馬全県・1地方

新聞記事 要約

群馬県の天然記念物であるヒメギフチョウ

生息域が狭い上に卵や幼虫の違法採取の被害

保護の為にパトロール・看板設置を強化

ヒメギフチョウとは

「赤城姫」「春の女神」などの異名を持つ蝶（準絶滅危惧種）
人里に生息するギフチョウ科だが、ヒメギフチョウは山奥に生息。

早春に羽化しスミレ等の春の花の蜜を吸い、それらと姿を消す。
幼虫がウスバサイシンという下草しか食べないのもあり、生息地は北海道・長野・赤城山に限られている。朝は通常だが日中は激しく飛び回る。
色合いと珍しさでファンが多い蝶である。



Wikipedia Commonsより

ウスバサイシンとは

- 山地のやや湿った林に自生する多年草
- 落葉広葉樹林、里山に生える
- 地表から 15 cm 程まで成長



出典：wikimediacommons

赤城山 データ

□ 群馬県

□ 標高1828m

□ 複数の山頂の総称

(黒檜山1828m、駒ヶ岳1658m
地蔵岳、1674m etc)



出典：
[wikimediacommons](#)

□ 棍名山、妙義山と共に称されている上毛三山の一つ

観光 データ

- 赤城山スキー場
- 赤城温泉
- キャンプ場
- 登山

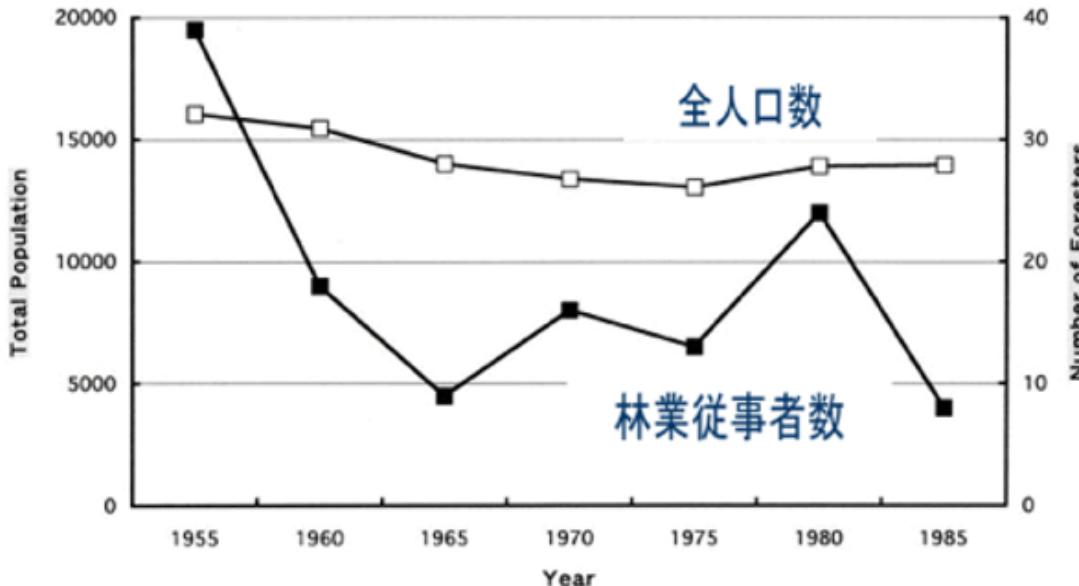


出典：両毛広域都市圏推進総合整備促進協議会

登山はいくつかのコースに分かれている

黒檜山・駒ヶ岳へのコース
鈴ヶ岳へのコース
鍋割山・荒山コース etc

赤城山の環境変遷



赤城村の林業従事者数

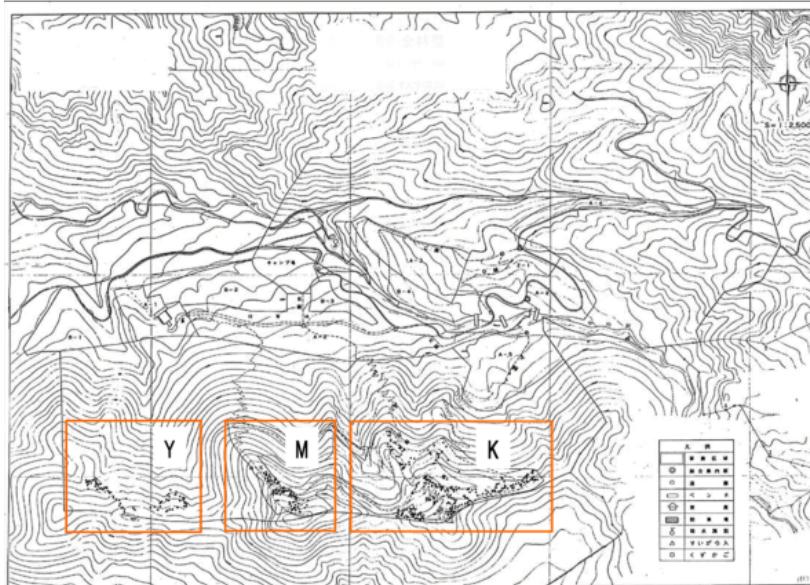
出典アカギヒメを守る会のレポート

□ 林業従事者数は減少していった

□ 放棄地が増え
ウスバサイシンが生える環境の減少

ヒメギフチョウ生息地

□ ヒメギフチョウの産卵場所



卵塊の分布

出典：ヒメギフチョウを守る会のレポートより

K：モロコシ山
M：ヤハズ山
Y：ヤハズ山の
一部

かつては様々な場所で産卵が確認されていたが、現在では3か所のみ

個体数の減少

ヒメギフチョウは里山に生息

ウスバサイシンは背が低いため、管理が行き届いた林のみに生える



個体数の減少

里山の放棄

定期的に手入れを行う保護区が必要

現在の対策

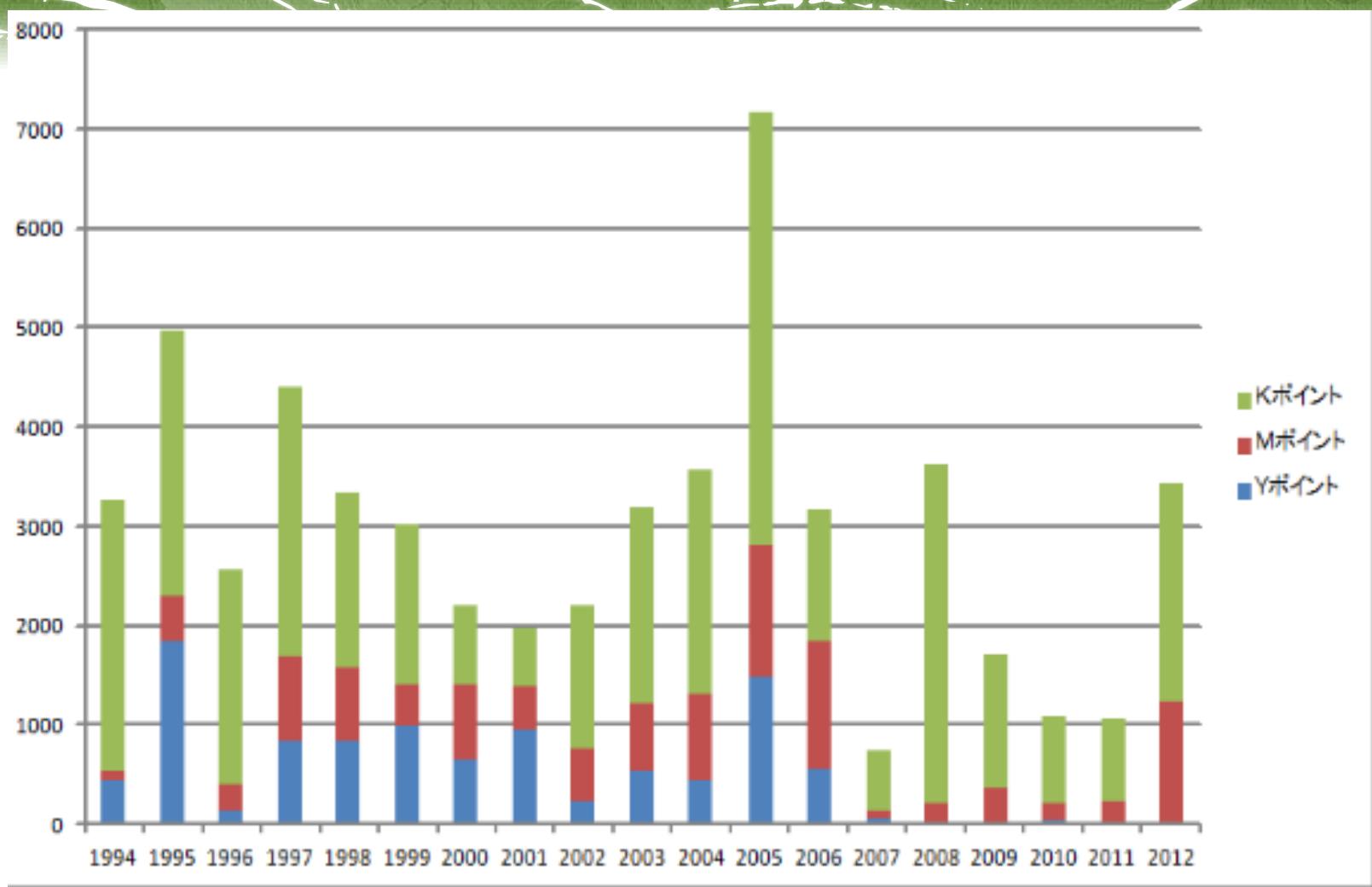
□ 保護

- ・「赤城姫を愛する集まり」や小学校、ボランティアなどによる保護区整備
(下草刈り、ウスバサイシンの苗植等)

□ 密猟対策

- ・生息地に近い登山口付近4か所に看板設置
- ・遊歩道に小学生の作った看板設置
- ・産卵ポイント付近のパトロール

産卵数データ



出典：赤城姫を愛する会WEBSITE

Y地区の状況

	2008	2009	2010	2011	2012
卵塊(卵)	0(0)	3(11)	5(40)	1(6)	2(11)

* 5年間成虫なし

(原因)

- 雜木の生い茂り
- ウスバサイシンの減少

⇒保護、手入れが不十分

問題意識

□ K、M地区（産卵が確認されている）

⇒密猟対策：看板設置、パトロール

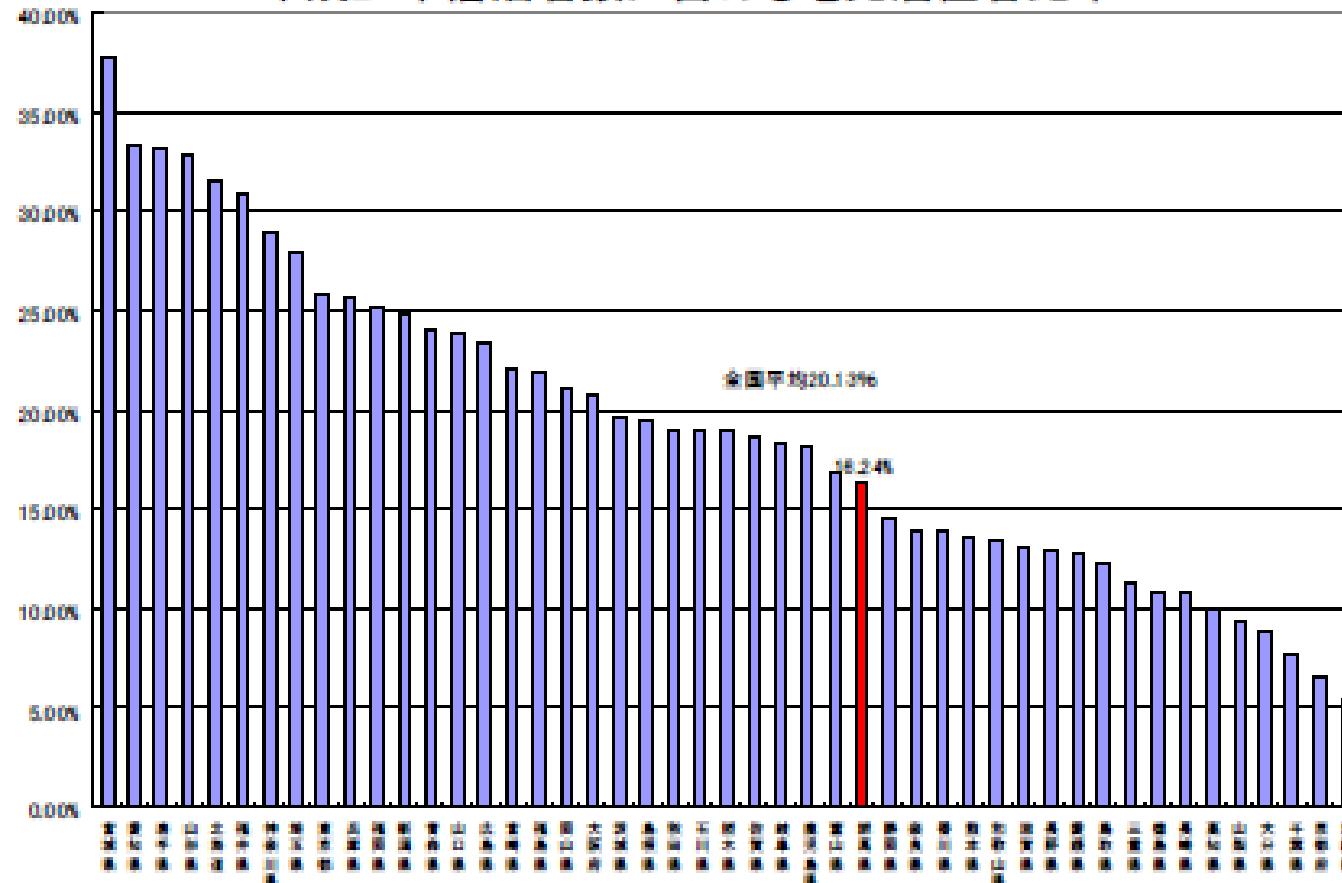
□ Y地区（産卵がほぼ確認されない）

⇒生息環境を改善する対策が必要

Y地区定期的に人が手入れを行う！！

群馬県の観光の傾向①

平成21年宿泊者数に占める地元居住者比率



出典：群馬県及び赤城山の観光の現状について

群馬県の観光の傾向②

□宿泊者数に占める地元客の割合

16.24% (全国平均20.13%)

全国順位：29位

比較的地元住民への観光の魅力がうすい

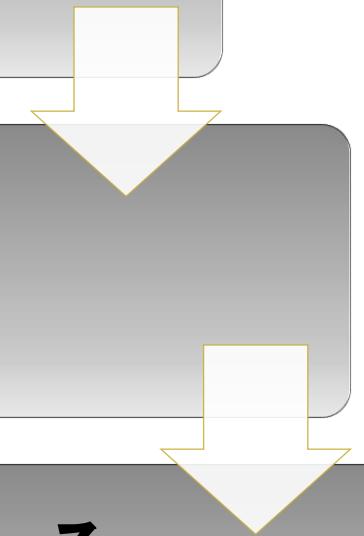
地元客を赤城山に呼び込む
魅力がほしい！！

政策提言

今回はY地区の改善に力を入れる

産卵ポイントに立ち入り規制をし、そこでイベントを行う

整備し、人を呼ぶことによる保護、監視



イベント詳細

イベント名：赤城姫ファーム

対象：地域周辺の親子

内容：Y地区を分割し参加した親子にスペースを割り振る。自由に使わせて1年後多くの蝶を孵した親子が優勝

報酬：優勝した親子には赤城姫を1匹プレゼント！

赤城姫の一生

期間	ヒメギフチョウの様子
4月～5月	卵の状態
6月～8月	幼虫
9月～3月	蛹
4月～5月	成虫、産卵



出典：ヒメギフチョウ観察日記



出典：赤城姫を愛する集まり

イベントの狙い

□ ヒメギフチョウに必要な保護とは？

「規制」のみではなく、

「規制」 & 「定期的な手入れ」

そして、、、

地域住民のヒメギフチョウ問題に対する
認識を高めることが重要

地元住民の認識

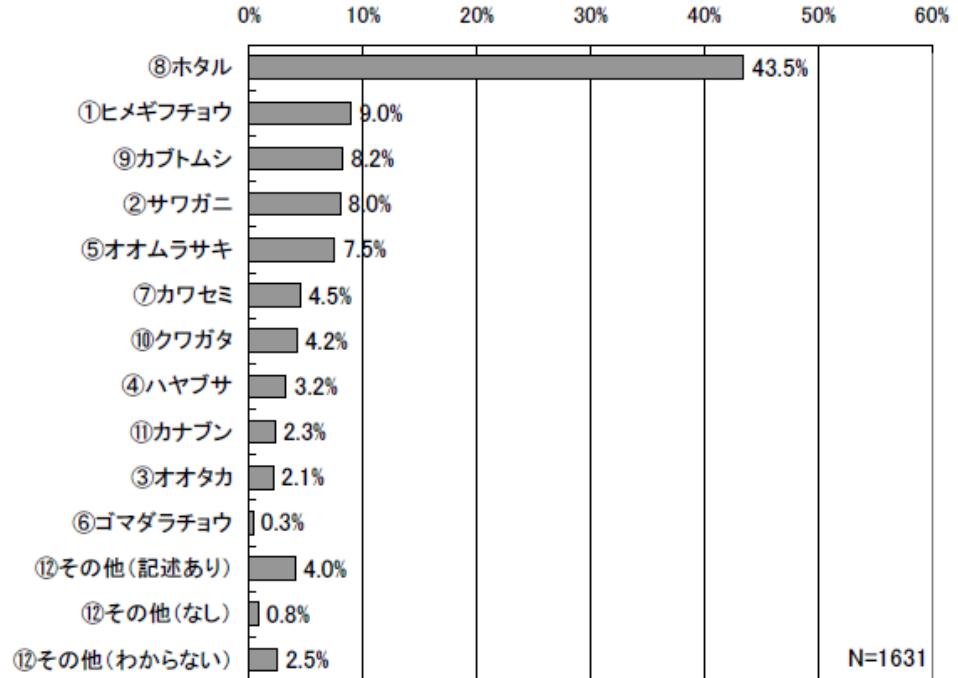


図 4-2-51 特徴ある自然資源（動物）

市はヒメギフチョウ保護に特別な予算を与えている
⇒地元住民の認識が薄い！！

メリット

親子にとってのメリット

- ・ヒメギフチョウの一生が観れる
- ・優勝すればヒメギフチョウゲット
- ・環境教育もかねたレジャー
- ・親子で手軽に参加できるイベント

市にとってのメリット

- ・ローコストで生息環境改善ができる
- ・定期的に人が訪れるので監視の代わりになる
- ・ヒメギフチョウ（赤城山）への注目が集まる

参考文献

- 赤城姫を愛する集まりWEBSITE (須田 昭司)

http://sky.geocities.jp/amb_akagi/akagihime/

- 前橋まるごとガイド

<http://www.maebashi-cvb.com/akagimap/index.html>

- 赤城山ポータルサイト

<http://akagi-yama.jp/>

- 日本すきま漫遊記

http://www.sukima.com/29_akagi07/15himeifu.html

- 渋川市

<http://www.city.shibukawa.gunma.jp/index.html>

- 群馬県及び赤城山の観光の現状について (群馬県企画部地域政策課)

<http://www.pref.gunma.jp/contents/000118146.pdf>

- ヒメギフチョウの一生

http://www5.kannet.ne.jp/~nagumo/pcuser/akagihime/hime_life.html

(最終アクセス日：全て2012/10/09)